

ミニトマトの新品種‘スーパーサンチェリー’、‘サンチェリーエキストラ’の特性

農業研究センター 天草農業研究所

研究のねらい

熊本県ではミニトマトの栽培面積が150 ha程度あり、品種としては90%以上を‘ミニキャロル’が占めている。促成栽培における‘ミニキャロル’の品種的問題点として、果実の裂皮・裂果が大きな問題として上げられており、この問題を品種的に解決するために、収量・品質的には‘ミニキャロル’と同等で、裂皮・裂果の発生の少ない優良品種の選定を実施した。

研究の成果

1. 促成栽培における樹勢については、‘ミニキャロル’に比し‘スーパーサンチェリー’はやや強く、‘サンチェリーエキストラ’は強い。
2. 裂皮・裂果の発生率は、‘ミニキャロル’に対して‘スーパーサンチェリー’‘サンチェリーエキストラ’ともに少ない。
3. 収量性は、合計収量では‘スーパーサンチェリー’‘サンチェリーエキストラ’ともに‘ミニキャロル’の86%程度と少ないものの、裂果・裂皮の発生が少ないために上物収穫量では‘ミニキャロル’と同等である。
4. 果実の糖度は、‘スーパーサンチェリー’は‘ミニキャロル’と同等であり、‘サンチェリーエキストラ’は0.5~1.0度ほど高かった。
5. 1花房当たりの花数は‘ミニキャロル’に比し、‘スーパーサンチェリー’が76%、‘エキストラサンチェリー’が67%と少なかった。
6. ‘スーパーサンチェリー’‘サンチェリーエキストラ’は‘ミニキャロル’より花房当たりの着花数が少ないこと、樹勢が強いことなどから、低段花房での果実の大きさが大きくなりやすい。

第1表 収穫終了時生育調査

品種名	茎長	最大		収穫 ¹⁾ 段数	草丈			1花房 花数 ³⁾	指数
		葉長	葉幅		5	10	15 ²⁾		
ミニキャロル	cm 418	cm 34.0	cm 36.0	20.1	cm 93	cm 180	cm 294	花 74.9	100
サンチェリーエキストラ	408	33.9	36.3	19.8	97	196	305	50.0	66.7
スーパーサンチェリー	398	32.6	34.1	18.4	89	187	309	57.2	76.4

注1) 花房段数 注2) 花房段数までの草丈 注3) 上位段より5段の平均値

第2表 収穫量(10株当たり)

品種名	上物収量		下物収量		合計収量		上物率	1果重	裂果率
	個数	重量	個数	重量	個数	重量			
ミニキャロル	個 3,884	kg 47.1	個 1,761	kg 13.9	個 5,645	kg 61.0	% 77.2	g 10.8	% 11.5
サンチェリーエキストラ	3,499	47.1	1,109	6.2	4,607	53.4	88.2	11.6	2.5
スーパーサンチェリー	3,396	46.1	947	6.6	4,343	52.6	87.6	12.1	4.4

第3表 果実糖度の推移

品種名	11/30	12/28	2/4	4/8	5/10	平均
ミニキャロル	Brix 6.6	Brix 6.5	Brix 6.1	Brix 9.3	Brix 7.8	Brix 7.3
サンチェリーエキストラ	6.8	7.5	7.7	9.3	8.1	7.9
スーパーサンチェリー	6.4	7.1	7.4	8.7	7.5	7.4

第4表 階級別収穫割合

品種名	2L以上		L		M		S		合計 果数
	果数	割合	果数	割合	果数	割合	果数	割合	
	個	%	個	%	個	%	個	%	個
ミニキャロル	6	5.6	86	81.1	11	10.4	3	2.8	106
サンチェリーエキストラ	21	21.4	62	63.3	14	14.3	1	1.0	98
スーパーサンチェリー	22	25.9	53	62.4	5	5.9	5	5.9	85

収穫日11月30日と12月3日の合計値